

取組項目別評価

27 年度実施計画		公立大学法人広島市立大学による自己評価		外部評価委員会の評価
		記号	評価理由等	記号 (S A B C D)
取組 1 教育カリキュラムの整備・推進	①	<p>【教育プログラムと 28 年度教育課程表の作成】</p> <p>10～12 月 本学内に COC+教育プログラム実施専門委員会を設置・開催し、COC+教育プログラムを策定し、平成 28 年度の教育課程表(案)を作成する。</p>	<p>a</p> <p>COC+教育プログラムを策定するため、10 月に COC+教育プログラム実施専門委員会とカリキュラム編成ワーキンググループ(以下 WG)を設置した。 10～11 月に、カリキュラム編成 WG を 3 回開催し、教育プログラム案を作成、12～1 月に実施専門委員会を 3 回開催し、COC+教育プログラムと平成 28 年度入学生に適用する教育課程表を作成した。 さらに、その内容として、1・2 年次の全学共通系科目に 2 つの新規科目(「広島の観光学」「地域再生論入門」)を設け、新たな担当教員の採用を決定し、より深く地域の魅力と課題を学ぶ講義内容とした。また学部専門科目を含めた地域貢献に関するカリキュラムを、全学共通の「地域貢献特定プログラム」として設定し、学生の学修意欲を高めることで教員の共通認識を得た。 以上のことから、「a」と評価した。</p>	A
	②	<p>【参加大学と単位互換の実施について協議】</p> <p>1 月 COC+教育プログラム開発委員会を設置・開催し、申請大学と参加大学間で共通カリキュラム及び単位互換の実施について協議する。</p>	<p>b</p> <p>2 月に第 1 回 COC+事業教育プログラム開発委員会を、本学サテライトキャンパスで開催した。(参加者は本学及び参加大学等 8 校、自治体の代表 4 市町、2 つの経済団体。)本学の平成 28 年度入学生に適用する COC+教育プログラム(案)の内容に関する意見交換や単位互換等についての検討を行った。参加大学から、単位互換が可能な教育プログラムや実施方法についての具体的な意見が出された。また、ワーキング会議を設けて今後の取組を検討することとした。 また自治体や経済団体からは学生が協働地域や企業を訪れて実施することを想定している演習科目やインターンシップについて、積極的に協力する旨の合意がなされた。 以上のことから、「b」と評価した。</p>	
	③	<p>【全学 COC+研修会の開催】</p> <p>3 月 本学の全学教職員を対象とした本事業の実施に関する FD(ファカルティ・ディベロップメント)として、全学 COC+研修会を開催する。</p>	<p>b</p> <p>3 月に本学の教職員を対象に、平成 27 年度 FD・SD(スタッフ・ディベロップメント)「全学 COC+研修会」(90 分)を開催し、参加者は 68 名であった。 広島大学の教員(4 名)を講師に招き、地域貢献人材の育成に取り組んでいる広島大学の地(知)の拠点整備事業「平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点」(COC 事業)についての講演を実施した。引き続き、本学国際学部が取り組んでいる、学生による地域貢献の実践例を報告し、COC+事業における地域貢献人材育成プログラムの説明を行った。 以上のことから、「b」と評価した。</p>	
	④	<p>【キックオフ・フォーラムの開催】</p> <p>3 月 COC+参加大学との共催により、COC+キックオフ・フォーラムを開催する。</p>	<p>a</p> <p>3 月 5 日、広島市内で「広島市立大学 COC+キックオフ・フォーラム 2016」を開催した。200 名の参加予定に対し 220 名の参加者があり、地域の観光ポテンシャルを活かしたこれからの地域づくりや人づくりをテーマに、4 名(日本旅行業協会中四国支部事務局長、広島経済同友会筆頭代表幹事、NPO 法人ひろしまジン大学代表理事、公益財団法人みやうち芸術文化振興財団学芸員)の講演、発表があり、本学から COC+による地域貢献人材育成事業の内容とそのスタートを告げる説明を行った。 さらに、フォーラム終了後の交流会には約 90 名の参加があり、本学学生や教員から地域連携の活動成果を発表し、参加者から事業に向けた期待等が表明され、交流を深めるとともに、大学間や地域との協働意識を高めることができた。 以上のことから、「a」と評価した。</p>	

27年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号 (S A B C D)	
取組2 観光関連データベースの構築と活用	⑤	【観光データベースの仕様の作成】 10～3月 観光データベースの構築と活用のプロジェクトチームを立ち上げ(10月)、観光関連情報の収集とデータベースの仕様策定を行う。	b	10月に観光関連データベースWGを立ち上げ、月4回データベースの仕様や収集する情報について検討した。これらの検討を踏まえて、「観光情報学」などの授業で学生の活用が期待できる仕様を策定した。以上のことから、「b」と評価した。	B
	⑥	【協働機関に情報の提供依頼】 11月 事業協働機関への観光関連情報の提供を依頼し、以降、随時追加提供を依頼する。	b	観光関連データベースの構築に向けて、7月の広島広域都市圏首長会議や10月の広島広域都市圏担当課長会議等において、自治体等に観光関連情報の提供を依頼した。以後、「広島観光学」などの授業で役立つ情報の提供を依頼している。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑦	【システムの構築】 12月 観光関連データベースの仕様を決定し、業者にシステム構築を依頼する。	b	上記の⑤で策定した仕様に基づき、業者にシステム構築を委託し、平成28年3月末に観光関連データベースの基本システムを構築した。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑧	【システムの運用開始】 3月 観光関連データベースシステムの運用を開始する。事業協働機関へ周知する。	c	出来上がった基本システムについて、サンプルデータを入れて運用に問題がないかどうか可否判断を行うなど、試験期間を設ける必要があり、スケジュールの見直しを行った。以上のことから、「c」と評価した。	
取組3 観光振興を目的とした教育研究事業の立案・推進	⑨	【COC+研究枠の設定と学内公募】 1月 学内競争的研究資金「特定研究費」の区分として新たに「COC+研究事業」枠を設定し、学内公募を開始する。また、本学が社会貢献事業として実施している「市政貢献プロジェクト」等にも新たに「COC+研究事業」枠を設け、プロジェクトテーマを学内公募する。	b	COC+研究事業の学内競争的研究資金は、補助対象経費外で本学が設け、平成28年1月から3月にかけて学内公募を行った。また、本学の既存事業である社会連携プロジェクト事業についてもCOC+研究事業の枠を設け、平成28年3月から4月にかけて学内公募を行った。(いずれも審査は平成28年4月～5月)以上のことから、「b」と評価した。	B
	⑩	【アートプロジェクトの実施計画の策定】 11～2月 本事業の実施年度(平成27年度～平成31年度)に本学が実施を予定するアートプロジェクトの実施計画を策定する。	b	アートプロジェクトWGの検討を重ね、事業協働機関と調整を図りながら、プロジェクト内容の検討や実施候補地案を抽出し、実施する計画内容を特定した。具体的には、廿日市市宮島に教育研究活動拠点を設けてアートプロジェクトを展開、広島市中区基町の本学教育拠点「M98」でのコミュニティーデザインプロジェクト、広島市内中心部での新規観光船へのグラフィティーデザインプロジェクトなどを内容としている。以上のことから、「b」と評価した。	
	⑪	【教育研究プロジェクトの実施計画の策定】 11～2月 COC+参加大学が、本事業の実施年度に予定している観光振興を目的とした教育研究プロジェクト(本学との共同プロジェクトを含む)の実施計画を策定する。	c	参加大学による教育研究事業については、各大学において該当事業の抽出を行い、大学間協議において取りまとめを行うこととしていたが、実施計画の策定までには至らなかった。以上のことから、「c」と評価した。	
	⑫	【宮島への教育研究活動拠点の設置等】 1～3月 本学が広島市中区基町地区に設置している教育拠点「M98」において、教育研究事業の実施準備をするとともに、廿日市市宮島に教育研究拠点(仮称:「サテライト宮島」)を設置する。	b	教育拠点「M98」は、広島市中区基町の大規模集合住宅地域に「学びの場」、「交流の場」、「創造の場」を作ることを通じて、文化芸術活動を行い、若者など新しい交流人口を増加させ、将来的には、基町で若者が住み、多彩に活動することを目指している。「M98」を拠点とした基町プロジェクトとして、平成28年度に実施するコミュニティーデザインプロジェクトや「もとまちカフェ」、写真展の開催などの諸準備を行った。また、廿日市市宮島の教育研究活動拠点(仮称:「サテライト宮島」)については、いくつかの候補地の中から絞り込みを行い、宮島の歴史的な町家のひとつを拠点とすることを決定した。以上のことから、「b」と評価した。	

27年度実施計画		公立大学法人広島市立大学の自己評価		外部評価委員会の評価	
		記号	評価理由等	記号 (S A B C D)	
取組4 事業運営 (実施体制の整備等)	⑬	【ホームページとニュースレターによる広報】 11月～3月 本事業の広報として、大学ホームページにCOC+事業の専用ページを開設し(11月)、適宜、情報を更新する。ニュースレターを2回発行する(12月、3月)。	b	専用ホームページの基本構成やデザインを3月までに終えた。開設は年度終了後となったが、暫定的な対応として、本学ホームページにおいて、COC+の採択、事業協働協議会の設置、協働協議会の開催、キックオフ・フォーラムの開催等について掲載し、事業の広報に努めた。 COC+ニュースレターは平成28年2月に第1号、3月に第2号を発行(各3,000部)・配布した。 以上のことから、「b」と評価した。	B
	⑭	【協働協議会の開催と機関の拡大】 12月 COC+事業協働地域協議会を開催する。協議会において、本事業への協力・連携機関の拡大について協議する。	a	平成27年9月において、本事業への参加を表明した機関は、6大学、17市町であったが、同年12月に開催した第1回事業協働協議会において、事業協働機関の拡充について協議し、呼びかけに応じて大学等2校(広島修道大学、広島商船高等専門学校)、自治体7町(大崎上島町、世羅町、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町)の参加があり、最終的に8大学等、24市町の協力を得た。平成28年3月に事業協働機関の同意書および協定書を文部科学省に提出した。 以上のことから、「a」と評価した。	
	⑮	【担当する教員等の採用】 1月 COC+推進コーディネーター2名、教育研究担当特任講師1名、事業協働地域調整担当特任助教1名、観光データベース担当特任助教1名、アートプロジェクト推進員1名、臨時職員2名を採用する。	b	年度の中途での採用活動となったため、適任者の人選に日時を要したが、1月にアートプロジェクト特任助教、3月に観光データベース担当特任助教を採用し、3月末までにCOC+特任教授2名及び特任准教授1名の採用を内定した。 以上のことから、「b」と評価した。	
	⑯	【評価委員会による評価の実施】 3月 COC+外部評価委員会を開催し、本事業の年度評価を実施する。年度報告書を作成し公表する。	b	COC+外部評価委員会における事業評価については、当該年度の終了後に事業の取りまとめができた段階で実施することとし、平成27年度は外部評価委員会の設置要綱案の作成などの準備を行った。平成27年度の事業終了後、年度報告書を作成した。 以上のことから、「b」と評価した。	